新　刊

□外山雅寛：**改訂簡略版　樺太の植物**　178 pp. 1998．樺太の植物編集室（〒067-0075 江別市向ケ丘50-1）．¥1,200（税込み）．

巻頭をカシポオキナグサ，ヒトツバオキナグサ，アルバムシトリスミレ，カワシマコザクラ，カラフトユキワリソウのカラー写真が飾る．いずれもカラー写真が貼り付けられており，いかにも手作りの本という感じがする．実際，装丁から印刷，製本まで著者自身で行ったものだという．改訂簡略版と銘打っているのは，同じ著者が1995年に出版した「樺太の植物」割高なコピー印刷に加え，麻布厚表紙による製本で一般には入手困難になったため，安価で入手しやすいものを考えたためとしている．

本書の内容は平成9年（1997）年6月から7月にかけての2週間，植物を求めて樺太（サリハン）を南部のユージノサハリンクス（旧豊原）から北端のシュミット半島まで縦断した紀行の記録である（踏査路の概略図が添付されている）．紀行文は楽しく読ませるもので，読者を飽きさせない．食虫植物研究会に所属する著者の第1の関心はコウシンソウに近縁といわれるマルバムシトリスミレを見ることだが，ことはもちろんそれだれには終わらない．シスカヒナゲシ，ホソバフタナミソウ，カラフトオヤマノエンドウ，カラフトミヤマイチゲなど北東アジアのフロラに関心があるものなら一度は見てみたい植物の名前が並ぶ．入手希望の方は上記に連絡をとっていただきたい．

この機会に戦後ソ連あるいはロシアから出版されているサハリンを含むロシア極東地方関係の植物誌も紹介しておきたい．1974年にはVorobiev D.P.らにより，「サハリンおよび千島列島の維管束植物検索表」が出版されている．1985年からは全8巻から成る，Charkevicz S.S.責任編集（氏は昨年故人となられた）の「ソ連邦極東維管束植物誌」が刊行中である．本シリーズはロシア極東地方の維管束植物に関する分類学的研究の集大成とでもいえるもので，ほとんどの種のロシア極東地方での詳細な分布図が添付されており，極めて有用である．いずれもロシア語で記載が行われている．（門田裕一）

□朝日純一，神田正五，川田光政，小原洋一：**原色図鑑 サハリンの蝶**　310 pp. 1999. 北海道新聞社．¥3,200（税別）．

サハリンでこれまでに記録された93種の蝶全てを網羅した，オールカラーの美しい原色図鑑である．植物関係では巻頭を飾るルイコフイチゲのほか，第1章2ツンドラの大地－自然と景観，及び3の「サハリンの花」が見逃せない．とくに「サハリンの花」では11ページに渡って，カラフトハンシノブやオクエゾガラガラなど60種もの美しい写真が収められている．なお，49ページのカラフトブシは誤りでヒロハカラフトブシ（*neocahalinensis*は*neosachalinense*の誤植である）あるいはオオチシマトリカブト*A. maximum*であろう．

著者らの辿ったサハリンの詳しい旅程図と，サハリンのロシア語地名と英語表記，そして旧日本語地名の対照表がつけられており，たいへん参考になる．「調査・採集プランニングの進め方」という項目もあり，これからサハリンでの調査を考えている方々にも有用な情報であろう．蝶の図鑑部分にはサハリンを中心として，北海道とロシア沿海地方を含んだ地域での詳細な分布図が各種ごとに添付されており，いわゆる北方系の生物の分布パターンが視覚的によく理解できる．蝶相の地理学的分析については，東海大学の藤岡知夫氏が「樺太（サハリン）の蝶相」という一文を寄せられており，北東アジアのフロラ解析を進める上でも参考になる．巻末にミヤマウスバシロチョウのサハリン産新亜種（植物分類学では変種に相当すると考えて良い）が記載されている．そこにミヤマウスバシロチョウ群の分布図が掲載されているが，その分化のパターンが高等植物のそれに似ているのが興味深い．（門田裕一）